2020　年度　授業計画(シラバス)

学　　科	鍼灸スポーツ学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	解剖学Ⅰ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60　(2)　時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	前期 木曜1・2限	教室名	第2校舎　501教室
担 当 教 員	左　明	実務経験とその関連資格				

《授業科目における学習内容》

鍼灸師とスポーツトレーナにとって必要とされる正常な人体の基本構造と機能を理解することを目標とする。
細胞・組織・器官・器官系の種類と機能、人体の成り立ちや人体の発生を簡単に説明できる。
循環器系の構成とその機能を説明できる。模型または動画で習った構造物を同定できる。
消化器系と呼吸器系の構成と機能を説明できる。模型または動画で習った構造物を同定できる。

《成績評価の方法と基準》

1. 定期試験:基本は100%。 ただし、「2～4」の項目で増減する。
2. 小テスト:90点以上の場合、一回に付き2ポイントを定期試験にプラス。ただし、100点に達するまで。
3. 課題についての発表:正しく発表できた場合、一回に付き1ポイントプラス。ただし、60点に達するまで。
4. 居眠りや私語の場合、一回に付き1ポイントマイナス(10ポイントまで)。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

解剖学　社団法人　東洋療法学校協会　編　河野邦雄ら著　医歯薬出版株式会社
早わかり解剖学ハンドブック　左　明著　ナツメ社

《授業外における学習方法》

教科書と参考書をよく読み、積極的な予習・復習に努めること。
授業終了後に問題集と国家試験の過去問(事前配布)を解くこと。わからないところをそのままにしないで、友達や、先生に質問し、その理解を高めること。また、積極的に模型を活用し、様々な構造物をイメージすること。

《履修に当たっての留意点》

①知識は楽にして身に付かない。人体の構造と機能という医学基礎知識を習得するには努力が必要。
②人体についての知識は増えれば増えるほど、勉強が楽しくなるよ。
③病理や臨床については、解剖学の知識がなければ語れない。本気にプロを目指しているのであれば、頑張れ！

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖学はどんな科目か、その分類を理解できる。解剖学的姿勢と体表の区分を説明できる。	解剖学教科書 早わかり解剖学ハンドブック	体表区分のポイントを自分の体で確認しながら、覚えておくこと。 配布された練習問題を解いておくこと。
		各コマにおける授業予定	解剖学とは、解剖学の分類 解剖学的姿勢、体表の区分について学ぶ。		
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	3つの平面(前頭面・水平面・矢状面)と相対的な位置を表す用語をすらすら説明できる。人体を縦に区切る線や体幹の横断レベルを示す目安を述べることができる。	解剖学教科書 早わかり解剖学ハンドブック	友達同士で専門用語をを口から出しながら覚えておくこと。(響きで覚えることが大事だよ) 配布された練習問題を解いておくこと。
		各コマにおける授業予定	方向と位置を表す用語について学ぶ。		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	細胞の構成要素とその機能を説明できる。とくに細胞内小器官の機能がポイント。	解剖学教科書 早わかり解剖学ハンドブック	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達同士で問題を出し合いながら勉強すること。
		各コマにおける授業予定	細胞の構造と機能について学ぶ。		
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	細胞分裂周期、分裂の仕方を説明できる。DNAの構造、RNAの種類と機能、タンパク質合成の過程を理解できる。	解剖学教科書 早わかり解剖学ハンドブック	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達同士で問題を出し合いながら勉強すること。
		各コマにおける授業予定	細胞分裂と遺伝子について学ぶ。		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	組織の4大分類、上皮組織の種類・分布と機能を説明できる。腺とは何かを理解し、内分泌腺と外分泌腺の違いを説明できる。	解剖学教科書 早わかり解剖学ハンドブック	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達同士で問題を出し合いながら勉強すること。
		各コマにおける授業予定	組織①　上皮組織と腺		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	(狭義の)結合組織の構成と種類、分布について説明できる。	解剖学教科書 早わかり解剖学ハンドブック	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達同士で問題を出し合いながら勉強すること。
		各コマにおける授業予定	組織②　支持組織その1　結合組織		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	軟骨組織の種類と分布を述べることができる。 骨組織の肉眼構造と顕微構造を説明できる。	解剖学教科書 早わかり解剖学ハンドブック	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達同士で問題を出し合いながら勉強すること。
		各コマにおける授業予定	組織③　支持組織その2　軟骨組織と骨組織		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	血液とリンパ液の構成について説明できる。 筋組織の種類、横紋筋の正体、筋収縮の仕組みを説明できる。	解剖学教科書 早わかり解剖学ハンドブック	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達同士で問題を出し合いながら勉強すること。
		各コマにおける授業予定	組織④　支持組織その3　血液とリンパ 筋組織 神経組織(詳細は後期の神経系にゆずる)		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	性決定と性染色体、受精から3層性胚盤の形成を述べることができる 外胚葉・中胚葉・内胚葉について、それぞれから発生する組	解剖学教科書 早わかり解剖学ハンドブック	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達同士で問題を出し合いながら勉強すること。
		各コマにおける授業予定	ヒトの発生:受精、着床、各組織・器官の発生、胎盤		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	体循環と肺循環、動脈と静脈と毛細血管、動脈血と静脈血、吻合を述べることができる。 心臓の所在と大きさ、心臓壁の構造を説明できる。	解剖学教科書 早わかり解剖学ハンドブック	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達同士で問題を出し合いながら勉強すること。
		各コマにおける授業予定	循環器系の基礎知識 心臓:心臓の所在と大きさ、心臓の壁		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	心膜、心臓の構造と分布する血管、心臓における血液の流れを説明できる。心臓の前頭断、4種の心弁膜がわかる水平断を図示できる。	解剖学教科書 早わかり解剖学ハンドブック	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達同士で問題を出し合いながら勉強すること。
		各コマにおける授業予定	心臓:心膜、心臓外景と内景、心臓の弁、心臓における血液の流れ		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	冠状動脈の分枝とその分布域、心臓の刺激伝導系と心電図各波形の意味を説明できる。	解剖学教科書 早わかり解剖学ハンドブック	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達同士で問題を出し合いながら勉強すること。
		各コマにおける授業予定	心臓:栄養血管、心臓の神経、刺激伝導系と心電図		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	模型で心臓の構造を説明できるようになる	解剖学教科書 早わかり解剖学ハンドブック 心臓の模型	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達同士で問題を出し合いながら勉強すること。
		各コマにおける授業予定	模型で心臓の構造確認を行う　VTR鑑賞		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	大動脈と主な分枝を図示し、分布域を概説できる。	解剖学教科書 早わかり解剖学ハンドブック	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達同士で問題を出し合いながら勉強すること。
		各コマにおける授業予定	動脈:大動脈とその分枝		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	頭頸部、上肢と下肢の動脈を図示し、分布域を概説できる。 動脈の拍動について、自己触診ができる。	解剖学教科書 早わかり解剖学ハンドブック	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達同士で問題を出し合いながら勉強すること。
		各コマにおける授業予定	動脈:頭頸部・上肢と下肢の動脈		

2020　年度 授業計画(シラバス)

学　　科	鍼灸スポーツ学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	解剖学Ⅰ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60　(2)　時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	前期 木曜1・2限	教室名	第2校舎　501教室
担 当 教 員	左　明	実務経験とその関連資格				

《授業科目における学習内容》

鍼灸師とスポーツトレーナにとって必要とされる正常な人体の基本構造と機能を理解することを目標とする。
細胞・組織・器官・器官系の種類と機能、人体の成り立ちや人体の発生を簡単に説明できる。
循環器系の構成とその機能を説明できる。模型または動画で習った構造物を同定できる。
消化器系と呼吸器系の構成と機能を説明できる。模型または動画で習った構造物を同定できる。

《成績評価の方法と基準》

1. 定期試験:基本は100%。 ただし、「2～4」の項目で増減する。
2. 小テスト:90点以上の場合、一回に付き2ポイントを定期試験にプラス。ただし、100点に達するまで。
3. 課題についての発表:正しく発表できた場合、一回に付き1ポイントプラス。ただし、60点に達するまで。
4. 居眠りや私語の場合、一回に付き1ポイントマイナス(10ポイントまで)。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

解剖学　社団法人　東洋療法学校協会　編　河野邦雄ら著　医歯薬出版株式会社
早わかり解剖学ハンドブック　左　明著　ナツメ社

《授業外における学習方法》

教科書と参考書をよく読み、積極的な予習・復習に努めること。
授業終了後に問題集と国家試験の過去問(事前配布)を解くこと。わからないところをそのままにしないで、友達や、先生に質問し、その理解を高めること。また、積極的に模型を活用し、様々な構造物をイメージすること。

《履修に当たっての留意点》

①知識は楽にして身に付かない。人体の構造と機能という医学基礎知識を習得するには努力が必要。
②人体についての知識は増えれば増えるほど、勉強が楽しくなるよ。
③病理や臨床については、解剖学の知識がなければ語れない。本気にプロを目指しているのであれば、頑張れ！

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第16回	講義形式	授業を通じての到達目標	静脈系の特徴を説明できる。 硬膜静脈洞を図示し、各部分の名称を説明できる。 上大静脈と下大静脈の根枝を概説できる。	解剖学教科書 早わかり解剖学ハンドブック	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達同士で問題を出し合いながら勉強すること。
		各コマにおける授業予定	静脈:静脈系の特徴・全身の静脈(一)		
第17回	講義形式	授業を通じての到達目標	主な状静脈を図示し、奇静脈系、上肢と下肢の静脈を説明できる	解剖学教科書 早わかり解剖学ハンドブック	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達同士で問題を出し合いながら勉強すること。
		各コマにおける授業予定	静脈:全身の静脈(二)		
第18回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	門脈系の構造と還流域、門脈系と体静脈系の吻合を説明できる。 胎児循環の特徴を概説できる。	解剖学教科書 早わかり解剖学ハンドブック	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達同士で問題を出し合いながら勉強すること。
		各コマにおける授業予定	静脈(三) 胎児循環		
第19回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	胸管と右リンパ本幹を経由するリンパの流れを概説できる。 リンパ節、脾臓、胸腺の構造、リンパ管系の働きを説明できる。	解剖学教科書 早わかり解剖学ハンドブック	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達同士で問題を出し合いながら勉強すること。
		各コマにおける授業予定	リンパ管系		
第20回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	心臓の構造、主な動脈・静脈を模型で確認し、その名称を同定できる。	解剖学教科書 早わかり解剖学ハンドブック 模型	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達同士で問題を出し合いながら勉強すること。
		各コマにおける授業予定	循環器系の構造を模型にて実習		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	過去問を解くことによって、習った知識を復習し、より理解できるようになる。	解剖学教科書 早わかり解剖学ハンドブック	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達同士で問題を出し合いながら勉強すること。
		各コマにおける授業予定	循環器過去問チャレンジ　過去問解説		
第22回	講義形式	授業を通じての到達目標	各消化器官の位置と形態を概説できる。 歯、舌、唾液腺の構造と機能を説明できる。 組織レベルで消化管の基本構造を理解し説明できる。	解剖学教科書 早わかり解剖学ハンドブック	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。
		各コマにおける授業予定	消化器系（一）　消化器系の構成と働き 消化管：口腔・歯・舌・唾液腺、消化管の基本構造		
第23回	講義形式	授業を通じての到達目標	咽頭、食道、胃、小腸、大腸の基本構造と各部位の構造上の特徴を説明できる。	解剖学教科書 早わかり解剖学ハンドブック	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達同士で問題を出し合いながら勉強すること。
		各コマにおける授業予定	消化器系（二）　消化管：咽頭・食道・胃・小腸・大腸		
第24回	講義形式	授業を通じての到達目標	肝臓の外観、肝臓の組織構造、胆嚢と胆汁の分泌経路を説明できる 膵臓の外観と構成（外分泌腺・内分泌腺）、膵臓からの分泌物	解剖学教科書 早わかり解剖学ハンドブック	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達同士で問題を出し合いながら勉強すること。
		各コマにおける授業予定	消化器系（三）　消化腺：肝臓・膵臓		
第25回	演習形式	授業を通じての到達目標	腹膜の構造と機能、腹膜と臓器の関係を説明できる。 過去問を積極的に解き、習った知識の理解を深め、達成感を体験できる。	解剖学教科書 早わかり解剖学ハンドブック	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達同士で問題を出し合いながら勉強すること。
		各コマにおける授業予定	消化器系（四）　腹膜・腹膜による腹部内臓の区分 過去問チャレンジ		
第26回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸器系の働きと構成を概説できる。 鼻腔、副鼻腔、喉頭の主な構造を図示できる。	解剖学教科書 早わかり解剖学ハンドブック	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達同士で問題を出し合いながら勉強すること。
		各コマにおける授業予定	呼吸器系（一）　呼吸器系の働きと構成　イントロ 気道：鼻腔・副鼻腔・喉頭		
第27回	講義形式	授業を通じての到達目標	左右の気管支の違いを図示できる。気管支の分岐、肺葉、肺区域と肺門、肺胞の構造を説明できる。	解剖学教科書 早わかり解剖学ハンドブック	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達同士で問題を出し合いながら勉強すること。
		各コマにおける授業予定	呼吸器系（二）　気道：気管と気管支の分岐 肺		
第28回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	胸膜と縦隔を説明できる。 呼吸器と消化器の構造を模型にて同定できる	解剖学教科書 早わかり解剖学ハンドブック 模型	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達同士で問題を出し合いながら勉強すること。
		各コマにおける授業予定	呼吸器系（三）　胸膜と縦隔 呼吸器系と消化器系の構造を模型にて実習		
第29回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	過去問を解き、習った知識の理解を深め、達成感を体験できる。 総復習をし、期末テストに受かる自信を持てる。	解剖学教科書 早わかり解剖学ハンドブック	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達同士で問題を出し合いながら勉強すること。
		各コマにおける授業予定	呼吸器系（四）　呼吸器の過去問をチャレンジ 総復習、質疑時間		
第30回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	良い成績を収める喜びを体験できる。	解剖学教科書 早わかり解剖学ハンドブック	教科書を読むこと。 配布された練習問題と過去問を繰り返し解くこと。
		各コマにおける授業予定	期末テスト内容の確認・解説		